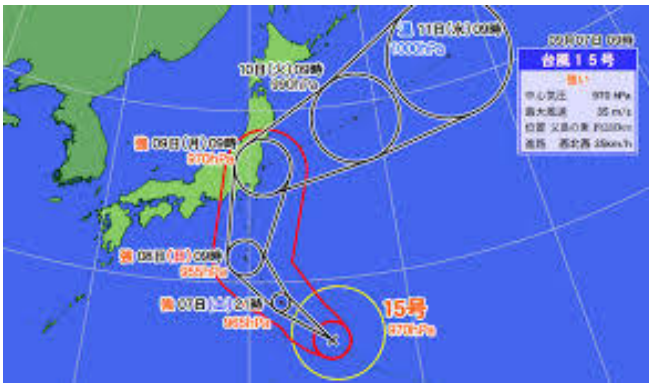


俊徳丸まじないをする



先日9月8日の夜から未明にかけて千葉県に上陸し関東地方を襲った台風15号は予想以上に大きな被害をもたらしました。千葉県在住の妻の叔父に翌日の夕方に携帯電話がつながりました。マンションの窓には雨戸がありません。夜中に窓ガラスが風圧で割れると思い急いでガムテープを貼りしのいだそうです。もう地震には慣れたけど、風の音が恐ろしく一睡もできなくて疲れ果てておられたそうです。

今回15号で学んだことは、同じ気圧の場合、大型台風と小型台風とでは小型台風の方が強い風になるということでした。また、8日の昼間、関東地方は比較的穏やかな日であったそうです。それをお昼のニュースで聞いていやな予感がしました。昔の人が「嵐の前の静けさ」と言った通り、60年前の「伊勢湾台風」も秋晴れの穏やかな日で、夜中にこんな大惨事になるとは夢にも思わなかった、と母がよく言っていました。また穏やかな日曜日であったことが更に災いしました。ゴルフ練習場もお客さんが多かったのでしょう、それでネットを撤去しなかったことが想像されます。その日休みだった工事現場の足場も多く崩れています。毎年数十回や

ってくる台風の特徴と状況を観察してしっかり記憶し、「年寄りの知恵」を育てていかなければならないと思います。

話は非科学的なことになります。下の写真は檀家さんから教えてもらった昔から伝わる「台風よけ」のおまじないです。昔の人は台風のことを「野分け」と呼びました。台風の風は扇風機の風と同じで「渦」を巻いた風です。あたるとだるくなり身体に良くありませんし、稲などの植物も特徴ある倒れ方をします。それで「野分け」と呼ばれるようになったそうです。そんなやっかいな風を早乙女主水之介が諸羽流正眼崩で斬るが如き「まじない」です。長い竿に草



刈りなどに使用する切れ味抜群の鎌を先端に取り付け家の前に立て

ます。台風は東寄りの風が多いのでそちらを向けて立てると良いでしょう。昭和34年9月26日夕に、気圧929ヘストパスカルで紀伊半島に上陸した「伊勢湾台風」の際も檀家さん宅では建物の被害はなかったそうです。写真は妻が住職をしている京都のお寺に設置してあるものです。一昨年の台風で墓地に設置してあったベンチが風で飛ばされ玄関に激突しました。ガラスは割れ、戸が外れないよう台風が過ぎる朝まで押さえていたそうです。それを聞いて檀家さんの話を思い出し「まじない」を設置したわけです。それがきいたのか、昨年関西地方を襲い大きな被害をだした2回の台風も被害はありませんでした。

俊徳丸